

「交通街づくり会議 in 和歌山」 開催

070210



いちご電車（貴志川線）

4 ページ
関連記事

活動報告

- 1月31日 IRE LRT研究会
- 2月 3日 臨時理事会
- 2月10日 交通まちづくり会議（和歌山）
- 2月11・12日 越前市コミバス検討会
- 2月16日 例会・理事会

今後の予定

- 2月17日（土）福井鉄道との懇談会
- 2月28日（水）IRE LRT研究会
- 3月3日（土）～4日（日）
全国バスマップサミット（仙台）
- 3月11日（日）暮らしと環境を考えるセミナー
（福大）
- 3月11日（日）臨時理事会
- 3月16日（金）例会・理事会

メネー氏講演会番外編（永平寺訪問） 070113

講演会の前に、永平寺を訪問したいという要請があり、それに応え英語すらうまくしゃべれない案内人：はやしや、新車に買い換えたばかりの方向音痴の運転手：ミッテラン二人で一人前にもなりません、メネー氏と丸山氏とを永平寺にご案内いたしました。あいにくと、冬の永平寺にも関わらず雪は屋根に薄っすらとしかありませんでしたが、寒さとその中で苦行を重ねる修行僧の昼食準備などにも遭遇し、その雰囲気は味わってもらえたようで、しきりと境内の様子や麒麟などの妻飾りなどをデジカメに収めていりました。

その後昼食は、箸をうまく使って精進料理や蕎麦を食べていりました。さすがに足はしびれたようで、ここでも日本文化の片鱗を味わっていただけました。



（文責：はやしや、写真：ミッテラン）

日時：2007年1月22日(月) 10:00~17:30

場所：中京大学名古屋キャンパス(JR名古屋駅から東へ地下鉄で30分ぐらい)

第1部 講習会「地域公共交通再生の考え方と方法論」 主催：財団法人 豊田都市交通研究所

「中部地域公共交通研究会の紹介と講習内容の概要」松本幸正(名城大学)

「地域公共交通導入へのアプローチ」

福本雅之(名古屋大学)

「コミュニティバス導入プロセス」

嶋田喜昭(大同工業大学)

「需要と供給の検討手順」

福島利彦(トーニチコンサルタント)

「費用負担の計画」

山崎基浩(豊田都市交通研究所)

「みんなで創り・守り・育てる地域公共交通」

加藤博和(名古屋大学)



講習会



質問する高橋氏

第2部 特別セミナー「コミュニティバスの現状と未来」 主催：中京大学経済研究所

基調講演 「地域公共交通の大変革に向けて ~コミュニティバスの真の役割~」

中川 大(京都大学大学院工学研究科 助教授)

パネルディスカッション

・コーディネーター

寺田一薫(東京海洋大学海洋工学部 教授)

・パネリスト

金井昭彦(中部運輸局自動車交通部 部長)

大澤勲(桃花台区長会 新バス網検討委員会 委員長)

加藤博和(名古屋大学大学院環境学研究科 助教授)

中川大(京都大学大学院工学研究科 助教授)



今回のフォーラムは「中部地域公共交通研究会」のメンバーが中心となり開催されました。当日、西は山口県、東は宮城県から100名を超える参加者があり、会場は熱気ムンムンでした。春には、コミュニティバス導入のハウツー本の出版も予定しているそうで、楽しみです。「住民の住民による住民のためのバス」の成功例として京都醍醐バスなどが紹介され、「路線バスが空で走っていてもなんとも思わないが、コミュニティバスが空で走っていると悲しくなる」ような住民意識が芽生えれば成功に結びつくという意見が一番印象に残りました。

(報告 林照)

- 地域公共交通フォーラムに参加して -

このフォーラムでは、地域公共交通再生の考え方と方法論として、コミュニティバスに焦点を当てて研究発表がされた。

「交通事業者は路線バスが衰退したのは少子化が原因としている」との言葉が印象に残った。それは“なるほど”と感心したからでなく、商店街の人が“まちに来てくれないのは駐車場が足りないから”とか“電車がじゃまだから”等の言い訳と同じだと思ったからだ。「責任転嫁すれば楽だ」とか、「自分は悪くない」とでも主張しているかのようで、その言い訳は長年聞いているので飽き飽きしている。

コミバスを正しく運行させるポイントとして、ムーバスの「小型バス」「100円」の手法をそのまま真似るのではなく(コミバスを走らせることが目的化してはいけない)、地域特性を把握した上で運行させることが成功する秘訣。そのためにはワークショップを行い、利用しやすくなるように小さい内容まで検討することが大事とのこと。

今回のフォーラムはコミバスに焦点を当てた研究発表だったが、それぞれの地域にある公共交通との連携について触れられなかったのが残念だった。(文 はた)

- 地域公共交通フォーラムに参加して -

全体の感想

コミュニティバスに絞ったフォーラムでテーマとしては、面白いと思い、参加しました。いろいろな角度から論じられていましたが、総花的で実践的でなかったように感じられた。

これから新たに「コミュニティバス」を計画しようとする街の方々に説明するならいいが、既に導入しているところの担当者にとってはいささかも足りなかったのではないかと思った。

人口20~30万人の地方中小都市は、既存の「路線バス」の統廃合に四苦八苦しているのに「コミバス」で地域公共交通の再生を「コミバス」を中心にして地域公共交通を再生していこうという発想自体が「大都市型発想」だと感じて帰ってきた。

コミュニティバスの考え方

この研究会は、中部で考える「地域公共交通」のあり方を考える団体で大学、コンサルタント等で構成されており、メンバーにROBA理事の寺内さんも名前を連ねています。

説明によると、70人乗りの大型バスも「コミュニティバス」という発想で論が進められており、いささか興ざめといった感じでした。でも話している内容はいわゆる「コミバス」のことが中心でした。また、需要調査のこととか、経営はどうしたらいいのか?等のどちらかということ、実践向けというより学校の授業のようであった。ルート設定についても、概念的なことしか話さずもう少し具体的な面白い話題、例えば「適正なルート選択が必要」とのこと、既存のバス路線との競合路線との取り合いのことなどはなかった。

質問したこと

Qコミュニティバスだけで地域公共交通の再編ができるのか?既存のバスとの整合等について聞いたら、回答としては、当然に既存公共交通との整合は必要とのこと。

Q市町村合併によるコミバスの再編については、どうか?については、検討してきか今回は除いているとの回答であった。

今、新たにコミバスを計画する市町村より、合併等による再編や既存のコミバスの再編などに焦点を絞った方がよかったのではないかと思った。

(文: 高橋 八州太郎)

「交通まちづくり会議 in 和歌山」 和歌山市民会館 070210 清水・塚谷・林博・鳥居

全体が4つのセッションで構成され、セッション開始前にまず、和歌山市民アクティブネットワーク(WCAN)交通まちづくり分科会の小田代表の挨拶があり、続いて和歌山市の大橋市長の挨拶があった。

セッション 1では、和歌山県高野町副町長の高橋氏の基調講演「交通課題とまちづくり」が行われ、高橋氏の前任地である長野県飯田市での取り組み事例が報告され、飯田市中心市街地の30m道路(国道のバイパス)の中央にリンゴ並木を整備した様子等が紹介されていた。ここで高橋氏は、ゼネコンやディベロッパーに頼らない住民主体の活動の重要性を強調されていた。

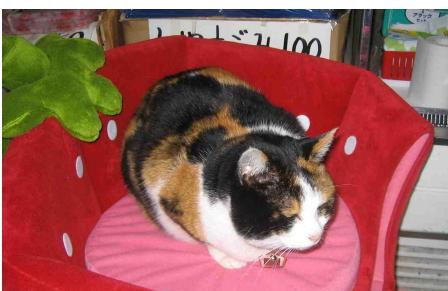
セッション 2では、和歌山都市圏の交通とまちづくりについて事例報告があり、特に目を引いたのは和歌山大学経済学部の辻本助教の講演で、和歌山県庁と和歌山市役所のマイカー通勤職員を対象にアンケートを実施し、各人にそれぞれ個別の交通診断カルテを作成して配布し、脱マイカー通勤への動機付けをしていく取り組みであった。この手法はTFP(トラベル・フィードバック・プログラム)と呼ばれており、TFPの実施前と比べて職員の意識が変わり、マイカー通勤は環境や健康に良くない、公共交通機関に比べて危険であると考えた職員の割合が増えて、その結果、マイカー通勤が減ってノーマイカーデーの参加率も向上する成果が見られたものである。

午後からのセッション 3では、全国の交通とまちづくりの事例が5件報告され、ROBAの林博理事からも、福井のバスマップ改善事例や福井鉄道のヒゲ線延伸構想等の報告がなされた。特に、ヒゲ線の駅前延伸構想の発表は、その日の福井新聞の駅前広場の地図を使っておこなったが、延伸後の駅前電停の予定位置が示された地図がマスコミ報道されたばかりであり(延伸で渋滞なし)、非常にタイミングがよかった。また、和歌山電鉄専務の磯野氏からの報告に対しては、ROBAの塚谷会員から和歌山電鉄の南海和歌山市駅乗り入れ(和歌山電鉄の1500V昇圧)の可能性について質問されたが、新たな投資(約7億円)とJR西日本との調整が必要で、すぐには実現できないとのことであった。

最後にセッション 4でパネルディスカッションが行われ、ROBAの林博理事もパネラー6名の中に参加した。持続可能な街や交通とは、和歌山都市圏の交通まちづくりの評価、今後地域のまちづくりをどう進めたいかの3つの項目について、コーディネーターからパネラーに順次質問された。項目 1については、住民自らが公共交通を大切にする意識、公共交通も社会資本であるとの認識を持つことの重要性を強調されていた。項目 2については、コーディネーターから100点満点で採点してほしいと言われてどのパネラーも困惑していた。今回の貴志川線再生への取り組みについては満点に近いとの評価が大半であったが、将来の着地点を明確にすること、例えば補助金支給が打ち切られる10年後にも和歌山電鉄が黒字であるといった具体的な目標を決めて今後活動していく必要があるとの指摘もあった。項目 3では、パネラーが各自の地域の課題を挙げて今後のまちづくりの方向性を説明するケースが多く見られ、林博理事からは、活動開始後いきなり京福電鉄が事故で長期間運休(バス代行)となり、地域住民の声を吸い上げるために必死に活動した体験談が報告された。そこで、存続活動当初は行政側が主役となるように支援し、必要に応じてROBAが住民代表の意見を出していたが、存続決定後は住民が主役で行政が黒子の関係で進めていくことが好ましいとの意見を述べた。

全体を通して感じたのは、公共交通に係る多くの団体の活動報告を聞くことができたのは、今後の我々の活動を考える上でも大変有意義であったが、発表者が予定時間をオーバーするケースが多く、参加者からの質問の機会がほとんどなかったのが残念であった。今回は時間の都合で和歌山電鉄には乗車できなかったが、会場入り口で和歌山電鉄のグッズ販売やパネル展示もされていて興味を引かれたため、

次回和歌山を訪れる機会があれば、ぜひとも(猫が駅長をしている)貴志駅を訪れて見ようと思った。(報告・鳥居)



いちご電車が走っています

わかやま電鐵 貴志川線
貴志 駅
駅長 たま (Tama)

(2007年1月5日着任)
<自宅住所>
和歌山県紀の川市貴志川町神戸
小山商店内<日曜日はお休み>

貴志川線応援ブログ <http://masatosan.blogzine.jp/>

写真/塚谷

のりのりマップ第4版発行しました

はやしや

のりのりマップが発行されました。当初は、11月発行の予定でしたが、少し遅れてしまいました。これもひとえに福井県の出生率の向上のためと、ご容赦願います。

今回は、第3版のマイナーチェンジといたしました。コンパクトさ、三つ折りの使い勝手の良さなど、非常に好評であったことなどもあり、あえてこれまでのような大幅なモデルチェンジの必要のなかったことが最も大きな要因です。もうひとつは、バス路線および便数の削減などにより、訂正箇所が非常に多かったこと、とくに1日14便以上の太線から、1日13便以下の細線に変更した路線が多く、全県マップはすっきりしてしまいました。

1日14便以上の太線というのは、日中も概ね1時間に1便程度ある路線ですが、他の県では、この程度の運行頻度でも破線の3段階で最も「少ない路線」となっているところさえあります。今後、郊外農山村地域でのバス路線のあり方についても、ROBAとして検討し、提言していく必要があることを今回の発行に当たり痛感いたしました。



和歌山駅		WAKAYAMA																					
下り 貴志方面		伊太祈曽止り																					
		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23			
平日	52	12	02	08	15	01	01	04	07	07	07	13	03	09	15	05	13	14	01				
		29	19	25	31	31	31	20	37	37	23	29	19	26	32	22	42	42	31				
	45	35	41			47	37				40	46	36	42	48	40							
土日			52	58							56			52	59								
	52	12	02	08	15	01	01	04	07	07	07	13	03	26	32	05	13	14	01				
	45	19	25	31	31	31	37	37	37	40	29	19	59		40	42	42	31					
土休日			35	41								46	36										
			52	58										52									

和歌山駅		WAKAYAMA																					
下り 貴志方面		伊太祈曽止り																					
		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23			
平日	52	12	02	08	15	01	01	04	07	07	07	13	03	09	15	05	13	14	01				
		29	19	25	31	31	31	20	37	37	23	29	19	26	32	22	42	42	31				
	45	35	41			47	37				40	46	36	42	48	40							
土日			52	58							56			52	59								
	52	12	02	08	15	01	01	04	07	07	07	13	03	26	32	05	13	14	01				
	45	19	25	31	31	31	37	37	37	40	29	19	59		40	42	42	31					
休			35	41								46	36										
			52	58										52									

田中口駅		TANAKAGUCHI																					
下り 和歌山方面		伊太祈曽止り																					
		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23			
平日	45	19	09	15	05	06	10	12	12	13	03	09	15	05	12	18	23						
	57	36	25	32	21	36	27	42	42	30	30	36	32	22	26	47	48						
	52	42	48	58						46	33	49	39	45									
土日	45	19	09	15	05	06	10	12	12	13	03	09	15	05	12	18	23						
	57	36	25	32	21	36	27	42	42	30	30	36	32	22	26	47	48						
	52	42	48	58						46	33	49	39	45									

運賃および標準所要時分表		(標準所要時分:分)													
和歌山	2	4	8	10	12	14	16	19	22	26	28	30	32		
田中口	170	2	6	8	10	12	14	17	20	24	26	28	30		
日根宮	170	170	2	4	6	8	10	13	16	20	22	24	26		
神前	170	170	2	4	6	8	11	14	18	20	22	24			
産山	220	220	170	170	2	4	6	9	12	16	18	20	22		
畑中	220	220	220	170	170	2	4	7	10	14	16	18	20		
雨輪	220	220	220	170	170	2	5	8	12	14	16	18			
吉井	280	280	220	170	170	3	6	10	12	14	16				
伊太祈曽	280	280	280	220	220	170	170	2	6	8	10	12			
山東	320	280	280	280	220	220	170	170	4	6	8	10			
大池	320	320	320	280	280	220	220	170	2	4	6				
西山口	360	320	320	320	280	280	220	220	170	170	2	4			
甘露寺	360	360	320	320	280	280	280	220	220	170	170	2			
貴志	360	360	360	320	320	280	280	280	220	170	170				

和歌山電鉄株式会社
〒640-0361 和歌山市伊太祈曽73番地
TEL 073-478-0110

林博さんからおみやげにいただいた、将来価値がでるかもしれない貴志川線時刻表です(変集長)

地球温暖化防止活動推進員等交流セミナーに参加して

堤端 充

2月5、6日に東京で開催された交流セミナーに参加してきました。このセミナーには、各都道府県から3名が参加し、分科会では、それぞれが、住宅、交通、環境教育の分科会に分かれて、ワークショップに参加しました。私は交通の分科会でテーマは「交通のCO₂削減をするためのワーク」に参加しました。コーディネーターは、上岡直美さんでした。

始めに、日本における交通部門が占めるCO₂の割合や自動車から排出されるCO₂の計算方法について説明があり、その後彦根市のデータを基に、色々な施策により交通運輸部門のCO₂がどれ位削減できるか検討しました。通勤通学時に、10%の人がマイカーから公共交通に転換すると約3%の削減ができそうです。でも、10%の人が転換するという前提が大きすぎるとの指摘が上岡さんからありました。

又、通勤通学私用帰宅時に50%の人が自転車利用に転換すると約5%の削減ができそうです。これについても50%とした事に対して大きいと指摘がありました。私達は業務関係でエコドライブを50%の車で行うと約0.3%の削減ができるとの計算になりました。これぐらいなら実行できそうですが、わずか0.3%しか削減できません。分科会の最後に、上岡さんより、交通関係でもCO₂の削減がいかに大変で、色々な施策を積み重ねなければ削減の目標値を達成する事ができないと言う話がありました。

参加者の方々からも、公共交通がなくなりつつあり、今後どのようにしたら公共交通の活性化ができるのか解らないと言う話がありました。最後の全体会でも公共交通の活性化についての質問がありましたが、なかなか答えが見つからないように思いました。「小さなことからコツコツと」が最良の方法ではないでしょうか。環境に限らず、まちづくりに関してもできる事からはじめる事が、今、私達に課せられた課題だと再認識した次第です。

作 / 漆崎 耕次

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「えち鉄通勤から京福バス通勤にそろそろ・・・」

塚谷(副編集長)

「たま駅長は人慣れしておとなしかったです」

内田(発行責任者)

「厳しい冬があればこそ春が待ち遠しい！」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog.nifty.com/roba/home/>